



「命の大切さ」

幼児部副園長 幸田 育子

先日、ふじみこども園で飼っていたうさぎの「コロン」が老衰のため亡くなりました。13年間、園の子どもたちや保護者の方、職員、施設の方々他、たくさんの方に愛され、可愛がられたコロンはとても幸せだったと思います。毎日ふぁいと組の子たちがコロンのお世話をしてくれ、登降園時には、園のみんなが話しかけてくれました。コロンは、年とともに白内障で目が見えなくなっても子どもたちが近くに来るとむくっと起き上がっていました。また、最後まで食欲はともあり、大好きな野菜のお菓子は袋の音で反応してカリカリと食べていました。亡くなった次の日に、ふぁいと組の子どもたちとお別れ会をしました。「コロンのお世話ができて嬉しかった」「コロン長生きしてくれてありがとう」と一人一人献花台に花を置く時にコロンへの思いを伝えていました。降園時には、乳児の子が保護者の方に一生懸命コロンの死を伝えている姿もありました。子どもたちから手紙も次々と届き、コロンへの思いが伝わってきました。身近な生き物の死を経験した子どもたちは何を思い、何を感じたのでしょうか？それぞれの年齢やコロンへの関わり方に応じて、心が動く瞬間があったのではないのでしょうか。子どもたちの心の成長に今回のコロンの死が大きな役割を果たしてくれたような気がします。



10月11日(土)は4、5歳児の運動会です。今年はこども園15周年を記念してテーマを「15周年おめでとうパーティー」にしました。子どもたちと保護者の皆様、地域の方々と笑顔あふれる運動会になるように職員一同チーム力を生かして進めてまいります。ご協力をよろしくお願いいたします。

「10月のねらい」

0歳児 はいはい組	○気温に応じて衣服の調節を行い快適に過ごす。	
	○戸外へ出て探索をすることや、保育者と一緒に身近な花や葉っぱを見たり触れたりすることを楽しむ。	
1歳児 とことこ組	○靴や靴下、ズボンの着脱を保育者と一緒にやってみようとしたり、自分でもやってみようとしたりする。	
	○戸外遊びや散歩で落ち葉やマツボックリなどの秋の自然物に触れたり、保育者や友達と一緒に体を動かしたりすることを楽しむ。	
2歳児 すくすく組	○保育者に受け止められながら、自分の気持ちを表情や動作、言葉等で伝えようとする。	
	○戸外や散歩先で走ったり、音楽に合わせてたりして体を動かして遊ぶこと、秋の自然物(落ち葉やドングリ)に触れることを楽しむ。	
3歳児 ぼうけん組	短時間 保育	○保育者や友達と一緒に、戸外で走ったり跳ったりして伸び伸びと体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ○心地よい秋晴れの下で、ドングリや落ち葉など身近な秋の自然物に触れ、形や大きさなど気付いたことを保育者に伝えようとする。
	長時間 保育	○友達や保育者と運動遊びや戸外遊びを通して、伸び伸びと体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ○秋の自然物(落ち葉や木の実)に興味をもち、拾ったり集めたり製作やごっこ遊びに使ったりする。
4歳児 わんぱく組	短時間 保育	○学級のみなどと一緒に走ったり跳ったりして体を動かして遊んだり、簡単なルールのある遊びを楽しんだりする中で、自分の力を発揮するとともに、友達や学級のみなどのつながりを感じる。 ○ままごとや製作遊びなどに、ドングリや落ち葉など秋の自然物を取り入れて遊ぶ楽しさを味わい、秋らしい季節や自然に親しみをもったり、形や大きさ、色の違いなどに興味をもったりする。
	長時間 保育	○気の合う友達と一緒に遊ぶ中で、思いを出し合ったり相手の思いに気付いたりする。 ○戸外遊びを通し、秋の自然(風・雲・植物等)に触れたり、伸び伸びと体を動かしたりして遊ぶことを楽しむ。
5歳児 ふぁいと組	短時間 保育	○学級やグループのめあてに向けて個々に力を発揮するとともに、同じグループや係で動きや言葉を考え合って取り組み、やり遂げた満足感を味わう。 ○共通の目的をもった友達と一緒に遊びを進めたり、自分たちの生活を進めたりしていく。 ○ドングリやマツボックリなど、種類や形、大きさの違いや数量に関心をもったり、ドングリ転がしやマツボックリのけん玉など自分で工夫して遊びに取り入れれたりする中で、季節の変化に興味をもつ。
	長時間 保育	○戸外遊びの中で、リレーや鬼ごっこなど友達と一緒に遊びを工夫したり展開したりして自分たちで活動を進める充実感を味わう。 ○ドングリやマツボックリなど、秋の自然物を遊びに取り入れれたり、トンボやバッタなどの生き物に興味をもち、気になったことを絵本や図鑑などで調べたり気付いたことを友達と伝え合ったりする。
預かり保育りす組		○気持ちのよい秋の自然の中で伸び伸びと体を動かしたり、じっくりと自分のしたいことをしたりして遊ぶことを楽しむ。

★CES 掲示板★

○9月の重点目標を振り返って

“栽培物を収穫する嬉しさを味わう”では、夏季休業中も登園していた子どもが当番活動として、水やりを繰り返し行っていました。その甲斐あって9月の始業式にも、草花は枯れることなく元気に生長していました。夏季休業中食することができない大きさや熟しすぎて変色したオクラやピーマンを収穫して、野菜のスタンプにして、形を楽しみました。



“日常備蓄で災害に備えよう” 9月の防災の日には、地震や火事などの災害に対する防災意識を高めることができるように、各学級で絵本や紙芝居、視聴覚教材を用いてそれぞれの学年に合った指導を行いました。指導を積み重ねてきたおかげで、火事の想定時には「ハンカチで口をおさえて、煙を吸わないように逃げるといいんだよね」と言っていました。また、園から、ご家庭に備蓄品をお配りしました。この機会に、ご家庭の備蓄品を確認した方も多くいたようでした。

○10月の重点目標

「給食を美味しくなんでも食べよう」

芋やりんごなど秋に美味しい果物や野菜など、食欲の秋を迎えました。学級の中で、5歳児は、絵の具を使って柿や梨などを描いて食べ物列車を作ったり、4歳児は折り紙で栗を作ったりしてこれから給食で出てくる、食材を楽しみにしている姿が見られています。

様々な食材が出てくる、給食を友達と一緒に食べる中で、苦手と感じるメニューに挑戦したり、一口食べてみたら美味しく、完食できた体験を積み重ねたりしていけるようにしていきます。

「食品ロス月間」

食品ロスとは、まだ食べられるのに廃棄される食品のことです。日本では、まだ食べられるのに廃棄される食品、いわゆる、食品ロスは464万トン（農林水産省および環境省「令和5年度統計」）食品ロスを国民一人当たり換算すると“おにぎり1個分（102g）の食べ物が毎日捨てられていることになっています。必要な分だけ買ったり作ったりする意識をもつよう、栄養士と連携を図ったり視聴覚教材や絵本を活用したりして話題にします。伝えたりSDG'S関連にも触れながら食品ロスを知らせていきます。

【てまえどりについて】

明日からできる ECO アクションとして、“興味はあるけど何から始めたらいい？”“どんなことができるかな？”そんな方に、明日からできる、地球にやさしいアクションをご紹介します。

買い出しの前に、冷蔵庫の在庫を確認し、食材を買いすぎないようにしましょう。また、環境省や農林水産省などで心がけの1つとして紹介されている、“てまえどり”をご存知でしょうか。買い物の際、すぐに食べる食材は棚の手前からの賞味期限・消費期限の短いものから取るようにすることも食品ロスを防ぐ行動です。